



(こども版) としょかんだより No.297

2009年

2月号

# わくわく本だな

富山市立図書館

## 今月のおすすめ



= 1・2年  
= 3・4年  
= 5・6年

- あたらしくはいった本の中から、おすすめの本をしょうかいします -

### 「てぶくろがいっぱい」 (えほん)

フローレンス・スロボドキン / 作 偕成社



ある日、ドニーは赤いてぶくろのかたほうをなくしてしまいました。それを知った町の人たちは、おちている赤いてぶくろをみつけてつぎつぎに家にとどけてくれます。いっぱいあつまったてぶくろを見て、ドニーの家族はいいことを思いつきました。

### 「おいなり山のひみつ」

茂市 久美子 / 作 講談社

ひろしは、ぐうぜんおうぼしたプレゼントにあたりました。それは「お山ですごす一週間」です。ひろしが山あいの駅につくと、小さな男の子がむかえにきていました。男の子はひろしを林にかこまれた、古いかやぶきの家にあんないしてくれました。



### 「トランプおじさんとペロンジのなぞ」

たかどの ほうこ / 作 偕成社



トランプさんは、動物のことばがわかるおじさんです。ある日、新聞の集金にもぐらがやってきました。(おじさんは、もぐらの字も読めるので新聞を取っているんですよ) 近頃、真っ白な新聞が配達される訳を聞くと、もぐらは泣きながら「新聞社にペロンジがいる」というのです。いったいペロンジって何なのでしょう？

# あたらしくはいった本

えほん

## 「 アンジェラのおねがい 」

こやま 峰子 / 作 教育画劇



ある日とつぜん、サラエボでせんそうがはじまりました。学校はへいたいのきちになり、まちの中では、てっぼうのたまがとびかっています。アンジェラの家でも、お父さんがせんそうに行かなくてはなりません。「かみさま、おねがいします。パパがぶじに帰ってきますように。」

ものがたり

## 「 となえもんくん くわばらくわばらのまき 」

もとした いづみ / 作 講談社



となえもんくんは、道場でまじないのしゅぎょうをしています。たとえば、しゃっくりがとまらない時は、「はしの下をくぐれ。」というまじないをとнаえて、水をのみます。雨がふらない日での時は、道場にいる全員で雨ごいをするのです。

## 「 すずをならすのはだれ 」 安房 直子 / 作 PHP 研究所

雪のふるさむい日、うさぎが森の中を走っています。あんまりいそいでいたので、なにかにどしんとぶつかりました。見上げると、入り口にぎん色のすずがついた小さな家です。すずをならすと家の中からきれいなやさしい声が聞こえてきました。



## 「 雪の日のたんじょう日 」

ヘレン・ケイ / 作 長崎出版



スティーブンは、早く雪がふったらいいなと思っていました。たんじょう日に、友達と雪合戦ゆきがっせんをして遊べるからです。たんじょう日の前の日、ねがいどおりに雪がふり始めました。ところが、雪はどんどんふりつづけ、車も動けないほどになってしまいました。

## ものがたり

### 「リンゴの丘のベツィー」

ドロシー・キャンフィールド・フィッシャー / 作  
徳間書店



両親のいないベツィーは、大おばさんに大事に育てられていました。ところが、大おばさんが病気にかかり、いなかにある親せきの農場に行くこととなります。農場では、子ねこのめんどろを見たり、牛乳からバターを作ったりという生活がまっていました。都会育ちのベツィーには、はじめて体験することばかりです。最初は不安だったベツィーですが、少しずつできることが増えていきました。

## ちしきの本

「わたしは海獣のお医者さん」 勝俣悦子 / 作 岩崎書店



海獣とは、イルカやアザラシなど海にすむ《ほにゅう類》のことです。作者の勝俣さんは、水族館で海獣の病気を治してきました。たとえば、病気のシャチのこどもを助けるためには、注射をしなくてははいけません。けれども、お母さんシャチは、こどもを守ろうと、おそってくることもあるのです。

## このおはなし な～んだ？

おはなしの題名あてクイズ



リナは霧の谷へ行くとちゅう、かさを風にさらわれてしまいます。あわてて追いかけたリナがふと気づくと、小さな町に入り込んでいました。そこに住んでいるのは、真夏でもストーブをつけている発明家やいじわるなおばあさん、お面をとらない男の子など変わった人ばかりです。「働かざる者、食うべからず」そう言われたリナは、このふしぎな町でいろんな仕事をするようになります。



(こたえは、さいごのページにのってます)

名作をよもう！  
今月の1さつ



「赤ちゃんのはなし」 (ちしき)

マリー・ホール・エッツ / 作 福音館書店

お母さんのおなかの中にある目には見えないくらい小さな小さな卵。  
中には、いのちのもとが入っています。魚も動物もあらゆる生き物は、  
いのちのもとから生まれました。わたしたち人間も同じなのです。  
この本は、小さな卵が赤ちゃんとなって生まれるまでの様子を描いています。

つくってみよう！

第9回



いちごチョコをつくろう！

みんな大好き、あまずっぱい いちごチョコ



つくりかた 用意するもの：板チョコ、いちご、ボウル、ほうちょう、なべ

- (1) 板チョコをこまかくきざみ、ボウルに入れる。  
\*ほうちょうを使う時は、大人の人といっしょにね！
- (2) なべにお湯を用意して、(1)のボウルをのせチョコをとかす。
- (3) とかしたチョコにいちごをひたし、さます。
- (4) チョコがかたまったら、できあがり！



「だいすき!チョコレートのお菓子」(坪井麻子 / 作 雄鶏社) より

《クイズのこたえ》

「霧のむこうのふしぎな町」

(柏葉 幸子 / 作 講談社)

かしわば  
柏葉さんは、ほかにもたくさん

ふしぎなお話を書いています。読んでみてね。



< 編集・発行 >

富山市立図書館

富山市丸の内1丁目4-50

電話 076-432-7272